

伝える仕事で「まちづくり」と「商売」のお手伝い

経営トップ講義

@県立大 2019~20

「ビジネス経済の実践」要旨

④



「関わるすべての人と幸せを分かち合いたい」と話す中村代表取締役
県立大佐世保校(山下哲嗣撮影)

エスケイ・アイ・コーポレーション代表取締役

中村 徳裕氏(59)

佐世保市でフリーペーパー「月刊ならでわ!」を発行する広告印刷会社を経営している。ほかに、ホームページや動画の制作を手掛ける。「アナログ」と「デジタル」の強みを生かし、クラウドサービスを利用した業務支援にも取り組む。

立教大を卒業後、当時業界2番手の凸版印刷に就職。3年後Uターンを決意した。伯父の飯田四郎が創業したSK印刷・芸文堂に1986年に

入社。その後経営を引き継ぎ、2001年に社名を変更した。事業方針は、「クリエイティブであること」。仕事は感動を生まないといけない。スマートフォンに特化した媒体が増え、時代はアナログからデジタルへと変化しているが、本質は変わらないはずだ。凸版印刷を退職後、3カ月に悔しかった。町の魅力を紹

介する本を作りたいと思いい、1987年に1冊5000円の「佐世保ならでわブック」を出版。観光客だけでなく、地元の人に手に取ってもらおうことを考えた。4年に1回のペースで発行した。しかし、それでは編集チームを継続的に雇用できない。そこで、2000年12月に月刊フリーペーパーとして創刊した。県北・佐世保に特化して編集。地元では読者支持ナンバーワンだと自負している。

「ならでわ」の事業は会社の3分の1ほど。ほかには印刷・出版と動画制作、インターネット関連事業が占める。市内への移住をPRする冊子やミニバイクのご当地ナンバープレートのごデザインなど、市のコンペティションで勝ち取

アイデアを形に、感動を

つて制作したものも多い。アイデアを形にできることには喜びがある。
佐世保で仕事をするのだから、街が元気でないとけない。一度出て行った人も、また戻ってきてほしい。だから仕事以外でもいろいろな活動をしている。YOSAKOIさせば祭りでは副実行委員長を務め、第2回から21年間「名切お祭り会場」の司会を担当し盛り上げている。
個人のミッションは、100パーセントの情熱を込めたコミュニケーション事業と、趣味である音楽を通して、関わるすべての人と幸せを分かち合うことだ。皆さんはやりたいたいことを見つけ、現時点で最上ランクと思えるものから順番にチャレンジしてもらいたい。自分自身にスイッチを入れ、自発的に行動してほしい。(後藤洋平)

次回12月3日に掲載します